

佐藤容子 佐藤寛子

(ソプラノ)

(メゾ・ソプラノ)

～心に響く日本の歌～

Sugar Sisters



ちいさい秋みつけた
紅葉
まっかな秋
村祭
あきのこびとオータムタム
野菊 (加須)
叱られて (和光)
みかんの花咲く丘 (深谷)
朝はどこから (さいたま)
鯉のぼり (加須)
埴生の宿
など

演奏曲目は都合により変更となる場合がございます。

シュガーシスターズ

山形県山辺町出身。ともに山形県立山形北高等学校音楽科を経て東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。同大学院修士課程独唱科修了。姉妹それぞれが「日本歌曲」の分野で日本一を受賞し、高い評価を得る。切磋琢磨しあいがら高め合ってきた2人の原点は、幼い頃から童謡・唱歌の二重唱を楽しんでいたことに始まり、いま、この原点への思いが溢れ出す。童謡・唱歌を含めた「日本のうた」を「文化として発信したい!」という思いを持ち、「美しく響く日本の歌、心のハーモニー」をテーマに、息のあった艶やかなデュエットで歩みを進めている。2人の愛称は、佐藤と甘いお砂糖をかけて「Sugar Sisters」(シュガーシスターズ)。2014年、ファーストアルバムCD「わすれがたき、ふるさと」リリース、好評発売中。NIPPON SYMPHONYオーケストラと初共演。東京フィルハーモニー交響楽団と共演。BS-TBS「日本名曲アルバム」BS・朝日「全国童謡歌唱コンクール30回記念大会」にゲスト出演。メディアでの活躍の場も広げつつある。

姉: 佐藤容子 (ソプラノ)

2010年3月東京藝術大学大学院博士後期課程修了。團伊玖磨の歌曲研究において博士号を取得。音楽博士。第17回奏楽堂日本歌曲コンクール第2位。第75回日本音楽コンクール入選。併せて「木下賞」(日本歌曲最優秀歌唱賞)受賞。東京と山形にてソロリサイタルも多数重ねる。日中首脳晩餐会の席で日本歌曲を披露。2010年「三菱地所賞」受賞。声楽を吉田ユカリ、藤野恵美子、永井和子、伊藤京子の各氏に師事。

妹: 佐藤寛子 (メゾ・ソプラノ)

第54回全日本学生音楽コンクール声楽部門高等学校の部全国大会第1位。第73回全国選抜高校野球開会式で「君が代」独唱。伊藤康英作曲「歌曲集《ふたりしずか》《金子みすゞの詩による童謡集》」を初演する。第20回奏楽堂日本歌曲コンクール声楽部門第1位。併せて中田喜直賞受賞。2013年1月に東京文化会館にてデビューリサイタルを行う。(日本演奏連盟主催)声楽を吉田ユカリ、藤野恵美子、永井和子の各氏に師事。

ピアノ 前田拓郎



2016. 10/30【日】14:00開演 (13:30開場)

羽生市産業文化ホール大ホール

入場料: 1500円 全自由席
セット券の場合は2000円(格安料金!)

羽生de良い音楽を聴く会の発足を前にして

これまでの沿革の経緯と今後

羽生市産業文化ホールのオープン時に会の名称は忘れてしまったが、会費(1ヶ月750円)を払って隔月にコンサートを聴く団体があつた。会の名前は「友の会」のような気がするが、そうでないような気もする。会員は400人限定で、入会申し込みを開始したところが、すぐに一杯になってしまい、断るのに大変だった。やむなく追加募集をして、最終的には800人を超える、他の地域にはない、ガッチリした鑑賞サークルが誕生、発足した。

この会が文化ホールとタイアップし、両輪の輪となって開館直後の運営に大きく寄与した。即ち、羽生市産業文化ホールは館の目的である文化振興

に専念してより芸術性の高い、出演料でいえば多額な出し物(能、外国のオーケストラ等)や市民参加型の公演を手がけ、会は会で市民の目線に立ったもの(中村紘子のピアノ、小林道夫のチェンバロ、江藤俊哉のヴァイオリン、上原まりの筑前琵琶、神戸室内合奏団等)を取り上げ、行ってきた。

この当時、開館直後であるが羽生は全県下の文化施設から注目されることになり、また、羽生近郊の人々からは「クラシックの羽生」とまでいわれた。私の2年間の在職中、小澤征爾も毎年羽生に来ていただき、市民と一緒に日本そばで打ち上げをしたことがあった。その時に「羽生のホールはくノイスホール>だ」と音響の素晴らしさをほめてくれた。

今こそ、羽生のホールの特徴をPRして自主事業にしても貸し館事業にしてもクラシックに重みをおいた事業を行って欲しいものである。裏面へつづく